

本邦産野生シソの形態および精油に関する研究

川西良雄,笠井宣弘

1. 全国各地から野生シソを採集し,暖地適応性品種を選抜するために,形態ならびに精油成分について検討した。
2. 28 場所より採集した 61 種の野生シソを葉色によって,青シソ,赤シソ,雑シソに分け,この 3 系統をさらに葉形によって,チリメン型,半チリメン型,非チリメン型に分類した。
3. 61 種の野生シソは,抽穂ならびに開花始期が著しく異なったので,これを極早生,早生,中生,晩生,晩晩生の 5 段階に分類した。
4. 生草収量は,G-4 が最も多く,ついで G-3,G-2 であって,青シソはほとんどが a 当り 300kg 以上であり,赤シソは 200kg 以下であった。
5. 収油率は,最高(0.080%)と最低(0.001%)で顕著な差異がみられ,高含油品種として有望と思われる 0.05%以上のものは,R-12,G-12,G-7,G-23,R-21 の 5 種あった。
6. 精油収量は,生草収量がかかなり多く収油率の高い G-23 が最も多く,ついで G-2,G-5,G-9,G-13 であった。
7. 精油成分をガス・クロマトグラフィによって分析した結果から,青シソ I 型,青シソ II 型,青シソ III 型,赤シソ I 型,赤シソ II 型,雑シソ型,エゴマ型の七つ型に分けられた。
8. 精油収量(とくに収油率)および精油成分からみて,暖地適応性品種として有望と思われるものは,青シソ I 型に属する G-23 が最もよく,ついで G-1,G-2,G-9 であって,その他の青シソ,赤シソ,雑シソは不適性であった。